

中学生硬式野球シニアリーグの指導者の問題について  
ー日本リトルシニア中学硬式野球協会関西連盟Aリトルシニアに着目してー

安田 真典 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)  
指導教員 菅井 京子

キーワード：野球，指導者，リトルシニア

### 序論

1915年に全国中等学校優勝野球大会（旧制中学）が始まり，野球人気は急激に高まった，そして，1919年に東神ゴム工業株式会社が軟式ボールを完成させ，このボールを使った軟式野球が少年たちに広まった．1948年に学制改革に伴い，全国中等学校優勝野球大会が全国高校野球選手権大会に変わった．高校野球の人気はより一層高まり，注目された．その事によって中学野球や少年野球にも目が向けられ，中学生や小学生の為に硬式野球が始められた．そして，1972年に日本リトルシニア協会が中学生の為に設立された．チームも年々増え，2012年現在で42都道府県にまたがり約500チームがそれに所属している．地域によっては，少子化の為に野球をする子供が減ってきている事や指導者不足，指導者の高齢化などの問題が起ってきている．

そこで，本研究では，Aリトルシニアに着目して，まずチームの基本的な情報を調べる．そして指導者8人にインタビュー調査を行い，チームの抱える問題について明らかにし，その解決策を探る．

#### 1. Aリトルシニア

Aリトルシニアは1987年に創立され，一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会関西連盟に所属している．会員は60人で役員は43人，その内指導者が8人である．活動内容は基本的に土日祝の朝9時から夕方5時までで，夏休みや春休みは平日練習も行っている．グラウンドは2面あり，雨天練習場もある．会員が月10,000円会費を納めており，そのお金で運営している．決算報告を見ると収支のバランスがとれていて，積み立ても行っているので長期的にチームを運営できる様に配慮されている．

#### 2. Aリトルシニアの抱える問題

インタビュー調査を行い，指導者の年齢が

50歳代後半に集中していて，高齢化している事がわかった．また指導者の年齢も近い事もあり，一度に体力的にリタイアし指導者がいなくなるリスクが高い．指導者自身からも「若い指導者に来てほしい」，「後継者がいなくて心配」や「体力的に辛い」という話があった．その解決策としては「OBに声を掛けている」などが挙げられたが実際に効果として表れていない．そこでインタビュー調査を続け，指導者をアルバイトや専任で雇う事についても聞いてみると，「経営上成り立つのであれば雇っても良い」と全員の指導者が答えた．しかし，練習時間は基本的に1週間に16時間で，専任を雇う程の仕事量がない．そこでアルバイトで雇う事が考えられる．指導者を雇う為に会費を上げる事に関しても聞いた．現在は月に10,000円の会費であるが，他の京都のリトルシニアは平均15,000円の会費であり，Aリトルシニアの会費を5,000円上げても会費が高いと言う理由で会員が減ることがない．このお金を使い，野球の指導者を目指す大学生を4人くらい雇う．その中からチームを継いでくれる指導者を育てて行けば良いのではないかと．

### 結論

指導者を目指す大学生あるいはスポーツを専攻する大学生を雇い，後継者を育てて行く．それにより，学生が実際に指導者になる為の経験を積む事が出来る．この事はAリトルシニアと指導者を目指す大学生の両方にメリットがあると考えられる．

### 引用・参考文献

一般財団法人日本リトルシニア中学硬式野球協会,<http://www.littlesenior.jp>, 2013/5/29 閲覧

清水論 (1998年), 甲子園野球のアルケオロジー, 新評論, 57~277,